

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

6月号 盛岡YMCA宮古ボランティアセンターの3か月



編集発行人： 濱本有史 発行所： 特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL: 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>



一人一人のボランティアを

田澤嘉紀（埼玉県警勤務、盛岡YMCAリーダーOB）

はじめに、この度の東日本大震災においてお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被害に遭われた全ての方々にお見舞い申し上げます。

そして、YMCA宮古ボランティアセンターの開設にご尽力いただいた皆様、そこで活動してくださっている皆様に宮古市出身の一人として深く感謝申し上げます。

現在は仕事のため埼玉県内に住んでおりますが、私の地元は宮古市であり、震災直後に映し出された宮古市やその他の沿岸地域の被害状況を目の当たりにし、これまでに感じたことの無い絶望感と深い悲しみを感じました。

幸い、私の実家は海から離れた地域であり、家はもちろん家族にも被害はありませんでしたが、地元から遠く離れた自分に何かできることは無いかと考え、出した答えが「同級生の安否情報の共有化」でした。

私がしたことといえば断片的に手に入る安否情報をまとめ、メールアドレスのわかる人に一斉に送信するというたったそれだけのことだったわけですが、皆に感謝され安心を与えられただけ

でなく、一層の絆を深めることができました。

こうしたアイデアを思いつき、そして実際の行動に移させてくれたのも、私が学生時代に盛岡YMCAでリーダーをしていた経験の賜物かなと今は思います。

YMCAで活動した数年間はこれまでの人生において、最も充実していた時期でした。

自分で言うのもおかしいですが、私のボランティア精神は間違いなくYMCAで培われました。

これまでは、ボランティアというと何か特別なことのように感じていた人は多いと思いますが、今回の大震災を契機に人々の心の中のボランティア精神が一気に開花したように思います。

今後も一人一人が誰かのためにちょっと何かをしようと考えそれを行動に移せば、それだけで立派なボランティアですし、皆が今の気持ちを忘れなければ、東北はもちろん日本全体がもっと豊かになっていくと思います。

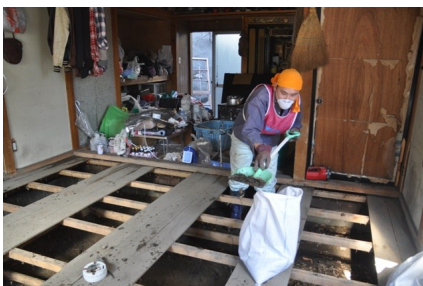
盛岡YMCA宮古ボランティアセンター3ヶ月の活動

盛岡YMCAは、3月18日より日本基督教団宮古教会のご理解のもと教会を活動拠点に「盛岡YMCA宮古ボランティアセンター」を開設しました。現在に至るまで全国のYMCAから派遣される、職員、ボランティア、またクライマーの会の皆さんの協力を受けて支援活動を行っています。

5月末日段階でのべ、1,473名のボランティア、424名の職員が活動を行っています。



家中に散乱した家具、調度品を一つ一つ整理する。思い出の品もあるので注意が必要だ。



4月、家の掃除をした後、床下には、ヘドロがたい積している。床板をはがし、ヘドロをスコップで掬い取る作業が続く。



全国からYMCAに送られてきた物資。この他にも自転車20台を宮古市社会福祉協議会、洗濯機30台を各避難所、ボランティアセンターに届けた。

時には、床下にもぐりこんでの洗浄作業も。



ヘドロを除去した後は、高圧洗浄機で洗い流す。これが大活躍。



重油や、海水を吸った量は、重たく、大人二人でも大変な作業だ。教会周辺から次第に遠方での作業の依頼が増えてきた。

岩手大学とのコラボレーション



宮古において震災当初は、ボランティアの主力は、地元の先生や高校生たちだった。4月になり、授業がはじまり、ボランティア不足が懸念される中、授業開始が5月初旬にずれ込んだ岩手大学がボランティアバスで毎日のように学生ボランティアを派遣してくれた。授業が始まった現在も毎週土曜日に学生を派遣してくれている。

活動は、床板をはがしや側溝のヘドロ除去などの力仕事が多く、バールを使ったりと慣れない作業で大変ですが、宮古の方々にありがとうと言って頂いて嬉しかったです。微力ではあると思いますが、これからも続けていきたいです。そして宮古の方と深いつながりを築いていければと思います。
岩手大学 4回生 萩原亜弥香



地域と共に



▲写真左は、掘田さん。宮古在住。家が全壊し、YMCAのボランティアが作業をしに行く中での一つの間にかボランティアに加わってくれるようになった。地元のことをいろいろと教えてくれる。

ヘドロの除去等、作業はベテラン。入れ替わりやってくるボランティアに作業の手順を教えてくれる。棟梁と呼ばれている。

堀田さんの隣は、近所のおばあちゃん。訪ねてくるボランティアの名前を壁に張ってくれている。後ろの似顔絵は大阪から来たYMCAのスタッフが描いたもの。

新たなステージに向けて



5月になると側溝のヘドロの除去のニーズが増えてきた。高齢化が進み、地域共同でのドブ掃除ができなくなって10年になる町内もある。震災から時がたつにつれ、地域の抱える課題が浮き彫りになってくるは、阪神のときと同様だと神戸からのスタッフが語っていた。



大阪YMCA OBの池田勝一氏が宮古ボランティアセンター所長に就任。阪神大震災や長年のYMCAの地域活動の経験をいかし、宮古における次のステージの活動にむけて準備を開始した。



東郷珠江です。滋賀YMCAユースボランティアリーダーOB、保育士、社会福祉士として、この度ご縁があり宮古の地で2ヶ月間ボランティア活動に参加させて頂いています。

2010年夏から世界旅行中！
合言葉はSmile！！

高校生ボランティア受け入れ



横浜の聖光学院高等学校が盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを拠点にボランティア活動を行った。

6月5日～8日、6月8日～11日と2グループに分けて総勢80名の高校生が参加した。オリエンテーションを受けて後、ヘドロの除去などの作業を行った。

10年、20年といわれる復興までの長い道のりを考えると若い世代がこの地を訪れ、考える機会を持つことはとても重要なことだ。

← 地域の人たちとともに側溝の掃除をおこなった。



北極点に到達した経験のある、菅原さん宅のお掃除にお手伝いに行ったが、いつのまにか、講義に…。真剣に耳を傾ける高校生たち。ボランティアは、してあげるのではなく、ボランティア自身が学んで行くことが大切だ。

宮古あきんど復興市出店



これからは、地域でなか楽しいことを行う。そしてより地域に溶け込むことが大切。池田所長の提案で、宮古あきんど復興市に参加。大阪から、YMCAののぼりや鉄板を取り寄せ、お好み焼き、たこ焼きの店を出店。本場大阪のたこ焼き、お好み焼きには、行列ができた。

今後、避難所、仮設住宅などにも出前出店予定。

登校時、交通整理



宮古の中央通りの信号は、所により、電気が通っていない箇所がある。

6月から、朝、YMCAのスタッフが交通整理のボランティアを開始している。

今後、被災地への支援は、長期的に行われて行きます。リアス式海岸の入江ごとに点在する被災地の復興は、今までの震災に比べ、さらなる困難と長期化が予想されます。

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、長期的な支援を宮古をベースに行っていく予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

● 救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納いただけます。

① 郵便振替（同封の払込取扱用紙をご利用下さい。）

口座記号番号 02290-9-54655

※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。

② 銀行振込み（下記口座にお振込み下さい）

北日本銀行本店 普通預金

口座番号：7029115

名 義：盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口

理事長 石渡隆司

感謝

2011年度 5月23日現在

順不同・敬称略

● 東日本大震災被災地支援募金 ●

伊藤眞一郎、勝又文子、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤終馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤田美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川眞輔、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、斎藤稜太、阿部雄偉、長澤博真、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田敏子、北川けい造、スガケイ、カトウアキコ、インダソウ、鈴木聖流、阿部美結、高谷厚子、佐藤江利子、樽林巧、千葉代子、西本作、工藤直子、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、栄角美和、東澤香織、工藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川眞輔、ワイズメンズクラブ東日本区

7月の予定

- ★7月3日（日）ファミリーサッカーフェスティバル（於：仁王小学校）
- ★7月10日（日）サンディスクール「アイス作り」（於：前潟センター）
- ★7月17日（日）

- ～7月18日（月）わんぱくキャンプ（於：都南つどいの森）
- ★7月26日～30日サマースクール①（於：前潟センター）

8月の予定

- ★8月1日～5日

- サマースクール②（於：前潟センター）
- ★8月3日～5日山のキャンプ（於：外山森林公園キャンプ場）
- ★8月7日～10日サッカーキャンプ（於：いこいの村岩手）
- ★8月8日～8月11日

- サマースクール③（於：前潟センター）
- ★8月8日～8月10日湖畔のキャンプ（於：秋田県仙北市思いの潟分校）
- ★8月28日（日）アドベンチャー8月活動「小川を登ろう！」矢巾町立自然公園

YMCA通常プログラム

【1期終了日】

- ☆7月12日（火）水泳火曜コース
- ☆7月16日（土）本町サッカー
- ☆7月19日（火）盛南サッカー
- ☆7月19日（火）中学1年英語
- ☆7月20日（水）水泳水曜コース
- ☆7月21日（木）松園サッカー
- ☆7月22日（金）中学3年英語
- ☆7月22日（金）篠木サッカー
- ☆7月25日（月）土淵サッカー
- ☆7月25日（月）中学生準備英語

【2期開始日】

- ☆8月18日（木）松園サッカー
- ☆8月19日（金）篠木サッカー
- ☆8月19日（金）中学3年英語
- ☆8月20日（土）本町サッカー
- ☆8月22日（月）土淵サッカー
- ☆8月22日（月）中学生準備英語
- ☆8月23日（火）盛南サッカー
- ☆8月23日（火）水泳火曜コース
- ☆8月23日（火）中学1年英語
- ☆8月24日（水）水泳水曜コース

5月アドベンチャークラブ活動「火おこしに挑戦してみよう！」



5月29日（日）、都南つどいの森に行ってきました。子ども8人、リーダー14人、スタッフ1人。今回は大学1年生の新リーダーがたくさん来てくれて、とてもフレッシュなメンバーとなりました。そして、今回のテーマは「火おこし」。薪を割り、燃やして、飯ごうでご飯を炊きました☆
先月に続き、今回のアドベンチャーも雨☔。（雨女、もしくは雨男でもいるのかなあ…？）炊事場には屋根があるものの、薪が湿ってしまい、とても火が点きにくい…。こんなあいにくのコンディションでしたが、悪戦苦闘しながらも火を点けることに成功！しかし、火が点いたことに安心して油断すると、いつのまにか消えてしまったり。最後までしっかり見ていないといけないところが大変なところですね。
火おこしは3グループに分かれてやりました。しかし、子どもたちは他のグループの様子を気にかけて、のぞきに行ったり、薪をわけてあげたり、グループの枠を越えて関わりが持てたと思います。それぞれの子が自分の得意分野や好きなことを見つけていて、薪割りにハマる子もいれば、ひたすらうちわであおぐ子など、自然に担当者ができていたようでした。
そんな、みんなで協力して点けた火は、みごとに真っ白できれいなご飯を炊いてくれました。想像以上の出来にみんな感動★しかも、お昼にはタイミング良く雨もやみ、青空！…ではなく曇り空の下でしたが、緑の中で気持ちよく昼食をとることが出来ました。

飯ごうで炊いたご飯は独特の香ばしさがあって、きっと子ども達の記憶にも残る味になったと思います。五感をフルに使って、この1日でたくさんのことを経験したり、感じたりできたのではないのでしょうか。（家村）

こぼれ種⑧

「今日も明日も、その次の日も」

日本基督教団内丸教会牧師（元日本YMCA同盟 主事）
中原真澄



先日、盛岡YMCAの総会がありました。会員の一人として総会に出るのは十年ぶりくらいでしょうか…スタッフとして出席した昔の緊張感はなく、リラックスして議事に参加しました。濱塚総主事からは、3月以来、盛岡YMCAが全国YMCAの協力を得ながら行ってきた被災地支援活動の報告が行われました。若いスタッフ達の熱意に促されるように始まった動きが、今や全国の継続した支援によって、たとえ小さくはあっても、宮古の地にある必要とされる活動として定着し、受け入れられつつあることを、喜びと感謝をもって聞きました。今後数年間に及ぶ働きを、将来的なYMCA像を描きつつ、様々な協力・協働を前提に考えている段階だということも報告されました。

最初は「YMCAって何？」という地域の方々の反応であったのが、今は「YMCAから来たんだね」と受け入れられるようになってきたとうかがい、大きな前進を感じました。それは、YMCAにとっての前進というだけではなく、地域が必要とする働きを共に見出し、担っていくための前進であったと思います。YMCAが存在する…それはYMCAという組織の拡大や維持のためでは決してありません。それぞれの地域がより強められ、地域に生きる一人ひとりが、そして家族が、より良い自らを造りだしていくための存在としてYMCAはあるからです。この根拠と目的を忘れてしまったら、カタチとしてのYMCAは残ったとしても、魂の抜けたYMCAとなってしまうでしょう。だからこそYMCAは、信頼を基軸として、継続して関わり続けることが求められています。地域への、そしてこの世界への責任を負う存在として、YMCAはこの世へと派遣されているのですから…。それが決して容易な道ではないことを承知しながらも。

だが、わたし【イエス】は今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。（ルカによる福音書13章33節）

サンディスクール



6月12日に仁王児童センターにて6月のサンデースクールが行われました。今月は「スライムからスーパーボールを作ろう！！」で、子ども11人、リーダー29人の合計40人と特にたくさんのリーダーが参加してくれ、多人数での開催となりました。それぞれ大きいスーパーボールやビーズの入ったスーパーボールなど思い思いのオリジナリティあふれるスーパーボールが完成しました。自分で作ったスーパーボールが弾んだ時のうれしさはまた格別だったと思います。来月もまたぜひ参加して下さいね（＾＾）☆

*** 次回は7月10日「アイス作り」を予定しています***

岩手県立大学 看護学部 3年
小野 華奈（いもこ）